

令和5年度 前期終始業式 講話

令和5年度、ウイルスとの共存も4年目になり、学びを止めない信念のもと、感染防止にも配慮をしながら、半年が過ぎました。4月から、生徒会活動としては文化祭の大盛況、運動部・文化部の各部活動の大活躍、感染の心配もありましたが、皆さんが精いっぱい「今を生きている」姿を見ることができた6か月となりました。苦情のお電話をいただくこともありました。それを上回る、みなさんへの称賛、おほめの言葉も頂戴しとても嬉しくも感じています。今日は、節目となる終始業式に、半年の振り返りと、後半戦へ意気込みを新たにしてほしいと、2つの視点からお話したいと思います。

1つ目。私は常々、授業を教えていた頃から、担任を持ったクラスの生徒にも、皆さんには、「目で見て、聞いて、触れて、心で感じてほしい」と、実際に経験することの大切さを伝えてきました。先日、お休みをいただき、京都の龍安寺を訪れました。室町幕府の有力者であった細川勝元が1450年に創設した禅寺で修学旅行といえは多くの学生が一度は訪れるであろう、お寺です。もしかしたら皆さんはコロナ禍で、調べる事だけで実際に足を運ぶことが叶わなかったかもしれません。私は中学の時も、この寺の存在をスルーしており、今になって、「正解のない問い」と対峙する時代だからこそ、ここにどうしても訪れたいと思っていたところ実現に至りました。かつてエリザベス女王の来日でこの寺を絶賛したことで有名にもなりました、石庭が有名なお寺です。見事に整えられた15個の石で形作る石庭は、どこから見ても14個しか見えない謎に包まれています。寺の奥にある手水鉢のつくばいには、「吾れ、唯（ただ）、足るを、知る」禅の格言が刻まれており、「満足することを知っていれば、人生は幸福に満たされ豊かと言える」「足りないと嘆くより、足りていることを満足せよ」つまり、常に足りないものを知り、得ようと努力し、向上心を持ち続けることにつながらなければ、意味がないのではないか??ということと理解します。龍安寺の石庭の、1つ見えない石、これは、「足りないものを見つめ、今の自分が存在することを心から感謝することを忘れてはならない」「見えない1つは、見る人の心の中で想像する。答えのないことに向き合うこと」と、自分なりに理解しながらゆったりと心落ち着け禅寺の空気に身を置くことができたとても幸せな時間となりました。石庭に流れた風の音や、龍が誕生する姿を描いた襖絵も実に見事で、日本の風情を感じる禅寺でした。皆さんも、また年を経て大人になった時に、その石庭がどう見えるか、そして何を感じるか、1つ見えないものは何であるか に向き合う時間があるといいなと思います。ちなみに、私はどう見ても、何度見ても、11個しか確認できません。まだまだ修行が足りない自分、15あると言われても、11しか探せない自分、この不足を何でどう補い、残りの人生かけて探そうとも思ったところで

2つ目。みなさんは、ジョン・バッカンの「魔法の杖」という童話を読んだことがありますか？話聞いたことはありましたが、ぜひ読んでみたく、2年ほど前に図書館の司書の先生に探していただき、市の図書館から数十年前の本を借りて読むことができました。主人公

の少年は路で出会った老人から不思議な魔法の杖を手に入れます。取手をまわしながら行きたい場所を唱えるとたちまちその場所に行ける。少年はその杖を使って争いに巻き込まれた小さな国の王子を救います。ところが、それに得意になっていた少年の手から、杖は突然離れてしまう・・・という話です。最後はシュールな終わり方です。この「魔法の杖」を愛読したのが「ドラえもん」の作者 藤子不二雄さんで、これにヒントを得て「どこでもドア」を考案した という話は有名です。ドラえもんが世に出て 50 年余り、現実になったものがいくつもあります。タケコプターはドローン、翻訳こんにゃくは、グーグル翻訳や AI 通訳機器などです。少年の手から杖が逃げたのは、道具の力を自分の力と過信したからではないか。技術や立場を自分だけのことに使おうとすると世界をゆがめる。物語が言いたいことは、技術を使う「人間」の「心の持ちよう」ではないか、と、ある新聞記事にありました。テクノロジーの進歩はこれからもどんどん加速しますが、この技術をどう使うか、ドラえもんとのび太の関係性を頭に入れ、1人1人がしっかり考えなくてははいけません。

世の中には、情報があふれる時代になりました。検索すれば全世界を見て回った感覚、本も読んだつもり、勉強できた気分になることもできます。しかし、インターネットの中にある事象は、「カタログ」に過ぎないということです。その中から、自分が行きたいところ、欲しいもの、食べたいものを選択し、「実際に体験して感じる心」を培っていきたいですね。

さあ、後半戦が始まります。3年生には残りの数か月を自分の夢の実現のために、そして1, 2年生にも、いずれ訪れる社会への一歩のために、有意義な青春の時間が過ごせることを期待しています。どうぞ健康に安全に、豊かな時間を送ってください。